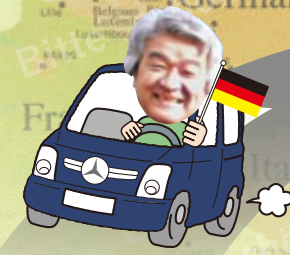




キューケンホーフ公園のチューリップ畑



オランダの話

私がドイツに住むようになったきっかけ、それは学生時代にオランダに滞在したことにある。学生時代、ドイツ語の先生がとても面白い講義をしてくれ、私がベートーベン、バッハなどのクラシック音楽が好きだったということも相まって、ドイツ語を勉強するようになった。ある時、国際学生技術研修協会という組織の「合格すると夏休みなどの期間に外国で給料をもらいながら研修ができる」という試験にまぐれで合格する。そして、オランダのエンスケデーという町の、トウエンテ工科大学無機化学材料実験室の助手として7週間滞在したこと、その前後に旧東西ドイツを旅行したことが原体験としてあるのだ。

ドイツ語、英語、フランス語がペラペラであった当時の研究室のスタッフが、私の下手くそ以下のドイツ語にもかかわらず非常に親切にしてくれたことで、さらにドイツ語を勉強しようという気になった。「オランダは小さな国だから、世界中と仲良くしない」と語ってくれた学生の言葉が印象に残っている。



ツァーンセ・スカンスの風車

結局、私が大学で勉強したのはドイツ語だけ。その後、ドイツに住み着くことになろうとは誰が想像しただろうか。まあそういう経緯があつて、オランダという国にはとりわけ深い思い入れがある。オランダといえば、まず風車とチューリップ。人口1600万人、九州ほどの面積のオランダは、ニードerland(低い国)と呼ばれるように、国土の約25%が海面下にあり、干拓によって拡大された。「地球は神が創ったが、オランダはオランダ人が作った」と言われる由縁である。

余談だが、大きな風車小屋では巨大な石臼、あるいは水車が一日中音を立てて回っている。その中には、家族が住む小さな部屋が2、3部屋。さぞかしうるさい音に悩まされながら暮らしていることだろう。どこの国に限らず、他人にはのどかな農村に写る光景も、実際に暮らしている人たちにとっては厳しいものである。チューリップは、原産がイラン

の山岳地帯だったといわれるが、17世紀のオランダではこのチューリップの球根が投機の対象とされたこともあった。球根の値段が吊り上げられるにつれ、誰もが金もうけをしたくて買い求めたが、結局は家一軒に相当するまで跳ね上がり、そして急激に暴落した。今でいうバブル経済の崩壊である。いつの世にも、こういう時期と

いうのはあるようだ。集約農業の発達している現在では、チューリップのみならず、いろいろな切花がオランダから輸出されるが、最高品質の品物は日本に送られるそうだ。日本でそれな

りる値段がするわけである。このチューリップにはたくさんの種類があり、3月下旬から5月下旬まで、アムステルダムの南西50キロほどにあるキューケンホーフ公園で、天気によければ見事に咲き乱れた光景を満喫できる。

文・写真/藤島 淳一
1952年生まれ。北秋田市(旧鷹巣町)出身。大学卒業後4年間のサラリーマン生活の後渡欧。1980年~85年旧東独ゲルリツ市立劇場オーケストラ団員。1986年よりドイツ旅行をする日本人のためのドイツ語通訳兼ガイド業を開始。リムジンドライバーガイドとしてドイツとその周辺諸国の個人旅行向けのガイドをしている。
<http://romantis.web.infoseek.co.jp>

あなたのウィッグ...
プチからフルのオーダーで
~おかげさまで1周年! 感謝をこめて~



- ① ¥18,900
- ② ¥42,000
- ③ ¥24,150

Y's wig ウィッグサロン Y
秋田市大町2-2-11 イーホテルショッピングモール1F
TEL018-866-2424 P有り:大町パーキング